



C=Culture
A=Art
P=Promote

市民と文化

第3号

2010年1月1日発行
発行人 海老澤 敏
編集人 小田 映子
西東京市泉町2-7-24
tel:fax 042-423-0804

西東京市 文化芸術振興会



あなたも **イベント** してみませんか?

皆で **意見交換** してみませんか?

市民と **文化** し合う **振興会**。

西東京モーツァルト祝祭合唱団

フォーレ「レクイエム」

お待ちかね!市民が作り、運営、演奏するモーツァルト祝祭合唱団はH22年5月23日こもれびホールにてフォーレ「レクイエム」演奏会を開催します。

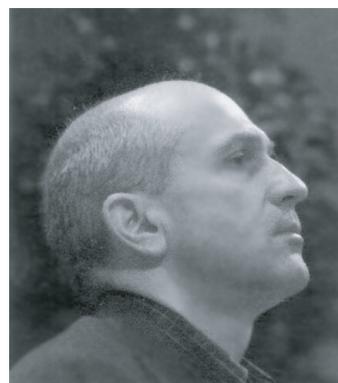
3年ぶりに大きな合唱曲を準備しています。曲はフォーレ作曲のレクイエム。2010年5月にこもれびホールで演奏されます。合唱団は、今回も新規に市民からの公募により結成された2009年西東京モーツァルト祝祭合唱団です。モーツァルト生誕250年に、市民が企画し、運営した2006年西東京モーツァルト祝祭合唱団を引き継ぐものです。当時は保谷と田無の合併後数年たっても、まだ、わだかまりがくすぶっていて、何をするにも「旧保谷では・・・」「旧田無では・・・」という言葉が出てしまう時期でした。主催者には、今までに旧両市に前例が無く、皆の協力無しにはできないことを、皆の調和によって作ってみたいという思いがありました。「合唱」はその思いにピッタリと合いました。この思いは、合唱団員だけでなく、オーケストラ、指揮者、ソリストなどのプロの音楽家を動かし、市内の企業からも協力が寄せられ、市からも当時としてできる限りの協力を得るに至りました。応募してきた市民も、既存の合唱団に所属する団員が垣根を越えて参加しただけではなく、今までどの合唱団にも所属していなかった市民(=そのなかには合唱未経験の市民も)を巻き込み、合唱の裾野を広げました。そしてこのことは現在にも受け継がれています。形に縛られない実行委員会による運営というのもこの合唱団のひとつの特徴です。活動の目的や方法が内部で常に議論されて運営に反映されています。今回の合唱団は、2006年の合唱団が持っていなかった課題を持っています。芸術性や、初心者への練習方法など前回より踏み込んだ議論が盛んに行われています。指揮者には世界で活躍するヴェネチア音楽院の指揮者エッディー・デ・ナダイ氏を迎え、また、5名の指導陣をもって合唱の指導が行われています。実行委員会で議論された目的のため必要となった方法ではありますが、方向も方法も前例がありません。活動の方向や方法は自ら決めるといふ、文化活動として当然の生き方を歩んでいるばかりでなく、独創的です。この活動によって、垣根の無い、広がりのある文化活動が市民から求められていることが実感されました。練習は、昨年中に早くも全ての譜読みを終え、昨年末から芸術性を深めてゆく作業に移っています。前回にも増して芸術的に深い演奏が期待されます。

西東京モーツァルト祝祭合唱団フォーレ・レクイエム演奏実行委員会

指揮 エッディー・デ・ナダイ (ヴェネチア音楽院指揮者)

ヴェネチア音楽院卒業(ピアノ、チェンバロ科)その後ボローニャ王立音楽院にて指揮を学ぶ。イタリア・トリエステ「ヴェルディ歌劇場」ヴェネチア「フェニーチェ歌劇場」スポレート「ベッリーニ歌劇場」ドイツ「ハノーバー国立歌劇場」にて副指揮者として活躍。イタリア・ゴリーツィア国際声楽コンクール公式伴奏者。世界的に有名なオペラ歌手カティア・リッチャレツリ、レオ・ヌッチ・コリア・キアラ等の伴奏者として共演。イタリア国营放送、スウェーデン・ラジオ、ルーマニア放送等数多くの録音がある。1997年よりヴェネチア音楽院にて指導している。今回初来日。

ソプラノ/ 坂井田真美子 バリトン/ 加賀清孝
オーケストラ/ 荒井 雅至とムシカアレグレ 合唱/ モーツァルト祝祭合唱団
合唱指導/ 加賀清孝・香月 武・坂井田 真実子 他





振興会会員の催事について

●「北多摩合同演奏会」●

■多摩六都フェアの事業から始まった、各市の市民音楽団体による合同演奏会です。
公の事業から離れ、今回から実行委員会を結成しての開催となりました。

出演：アンサンブル・アンプリール、ウインドアンサンブル和、小平青少年吹奏楽団、東村山スウィングバンド、東久留米市民吹奏楽団 入場無料

【日時】2月28日(日)13:00開場、13:30開演【場所】東久留米市立中央公民館

【お問合せ】042-468-6010(東久留米市民吹奏楽団・藤森) 042-463-7505(ウインドアンサンブル和・吉崎)

●代々木果廻会別会●

■能「屋島 弓流」(浅見慈一)・狂言「佐渡狐」(野村万作)・能「卒都婆小町」(浅見真州)・独吟「熊野」(浅見真高)・能「恋重荷」(小早川修)

【日時】2月21日(日)午前11時開演【場所】観世能楽堂

(公演に先立ちプレ・レクチャーあり。2・14(日)午後2時 於 国立能楽堂2階大講義室)

■能「千手」(小早川修)

【日時】4月23日(金)午後6時半開演【場所】於 代々木能舞台

(公演に先立ちプレ・レクチャーあり。4/11(日)午後2時 於 代々木能舞台)

【お問合せ】小早川 修 042-462-9350 kobayakawa-onoz@ktj.biglobe.ne.jp

●こもれびホール市民名画座●

■「劔岳」 監督:木村大作 出演:浅野忠信、香川照之

【日時】1月9日(土)11:00、14:00、17:00【場所】保谷こもれびホール

■「シリアの花嫁」2004年/イスラエル・フランス・ドイツ 監督:エラン・リクリス、出演:ヒアム・アッバス、マクラム・J・フーリ

【日時】3月27日(土)11:00、14:00、17:00【場所】保谷こもれびホール

【お問合せ】西東京シネマ倶楽部 042-452-6323

●「春光の舞」西東京市新現代邦舞連盟

■もうすぐ春、春の陽を浴びて、新現代邦舞連盟がお送りする古典と新舞踊の両方をお楽しみください。

【日時】2月14日(日)午前11時開演【場所】保谷こもれびメインホール 12団体 51曲出演【お問合せ】金子 042-463-2172

●西東京HULAフェスティバル2010 保谷こもれびホール共催事業

■西東京で初めてのHULAフェスティバルです。仲良く、楽しく素敵なステージを創りましょう。

【日時】4月11日(日)午後3時開演【場所】保谷こもれびホールメインホール【お問合せ】金子 042-463-2172

【後援】西東京市文化芸術振興会

●ふれあいこどもまつりアウトリーチ ●

■その1 1/23・31ひとみ座「歌って踊ってスズナ姫に出演しちゃおう！！」

2月11日のひとみ座の劇中で活躍するキツネの人形を作り、歌と踊りを覚えて本番に参加できるワークショップです。1月13日までに事前申込み:往復はがきに住所・氏名・電話・性別・学年明記し、保谷こもれびホールへ

■その2 1/24 だるま森「ストラメラでストコジャズ」

西東京市市民会館で当日開催の子ども文化フェスティバル参加企画。

当日9時半から申込み先着40名。総合工作芸術家 だるま森とオモシロ楽器を作ってセッションしよう！

3月に「親子でスケート」、4月に「ファミリーで楽しむ落語」を企画。詳細は子どもげきじょう西東京へお問合せください。

tel・fax:042-421-5133

●平成22年 参加・体験・感動! ふれあいこどもまつり●

■参加・体験・感動 みんなおいでよ! 夢と舞台芸術の広場へ。

【日時】2月11日(木・祝)午前10時【場所】保谷こもれびホール【主催】ふれあいこどもまつり実行委員会 東京都 財団法人東京都歴史文化財団【後援】西東京市・西東京市教育委員会・西東京市文化芸術振興会・西東京市社会福祉協議会 NPO法人子どもア

ミーゴ西東京 西東京市学童クラブ連絡協議会 西東京市保育園父母会連絡協議会【お問合せ】子どもげきじょう西東京 Tel・

Fax/042-421-5133

第9回西東京市民文化祭 実行委員長 中平 英二

西東京市民文化祭はこの秋に第9回の催しを終えたばかりであるが、この市民文化祭は旧田無市と旧保谷市が合併するまで両市においてそれぞれ32年の歳月を重ねて発展してきた二つの文化祭が、西東京市の誕生を機に合同して生まれたものであって、通算すると実に41年の長い歴史を持っている。

現在では、展示関係5部34団体、舞台関係15部166団体、合計20部200団体、参加人員約4千名に達する組織で、4ホール、8展示場を使用して開催され、来場者数は1万8千人に達するという大規模なものとなっているが、これはひとえに、参加者の創意と協調の努力が長い年月にわたって続けられたこと、及びこの期間を通じて、市民の心からの応援をいただき、また行政の深い理解と支援があったことによるものであると、たいへん感謝している。

最初に、合同までの歩みを簡単に振り返ってみたい。

旧田無市では、昭和44(1969年)年に最初の芽生えが見られたが、昭和50年(1975年)に田無市中央公民館が完成したことを契機に、教育委員会の支援のもとに全市的な催しとして田無市民文化祭が発足した。このとき参加した団体数は25であったが、10年足らずの間に70団体にまで増加するという急成長を遂げた。

一方、旧保谷市では市体育館の完成を機に昭和44年(1969年)に保谷市民文化祭がスタートした。最初は展示関係の団体が参加したのみであったが、次第に音楽部門、舞台部門の団体が加わって、平成5年(1993年)には5部門131団体の規模にまで成長し、文化祭を運営する方式として実行委員会と教育委員会の「共同主催方式」が確立された。

次に合同後の歩みについて述べると

互いに異なる経緯と運営方式を持つ二つの文化祭が合同したので、最初の数年間は、「相互の理解と親睦」を進めることに重点を置いたが、活動の基盤となる文化分野はほとんど同じであったので、さほどの混乱もなく、東西の融和が達成されるのにあまり時間はかからなかった。

その次の課題として取り上げたのは「観客との交流」である。制作品の展示や舞台での演技においては自己の表現に重点が置かれるのは当然のことであるが、出展・出演者の発表が観客の共感を呼び、さらに観客の参加意欲までを引き出すことが出来れば市民との一体感が生まれ、文化祭がより親しみやすいものとなる。実行委員会としてはこの点に工夫と努力を尽くすこととした。

文化祭の参加者、観客ともに約70%が伝統芸能にかかわる分野に属しているのであるが、高齢化が進むことにより伝統の継承が思うように進まないという問題が生じている。地域や学校において若い人たちが伝統芸能に触れる機会を増やすための方策の提案を行った。

文化祭の規模が大きいので、市民がその全貌を把握することが難しくなっていること、また参加者自身も他の分野の人たちと交流し、協力する機会が少ないなどの課題が生じている。この問題を解決するため、文化祭各部のハイライトを3時間くらいで紹介するオープニングイベントをスタートさせた。

今年で4年目となるが、観客から高い評価を得るとともに、内部の一体感も大いに盛り上がった。

文化祭の規模が大きく、歴史が長いということは、ややもすれば活動が安易に流れ、停滞するという問題が生じやすい。我々は常に「市民の草の根活動による地域文化の向上」という文化祭の理念を忘れず、さらなる発展に向かって進んでゆきたい。

西東京市文化芸術振興会 <会員募集>

CAP

文化芸術振興会員募集について

文化芸術振興会は今何をやろうとしているのですか？また今会員になればどんな活動が出来るのでしょうか？

- 今また将来やりたい文化芸術企画を持っておられる方へ……
入会されるとあなたの企画は様々な分野の振興会員の応援を得て実現できる可能性が大了。
- 現在文化芸術活動されている方々が困っている問題(例えば練習場、演奏会場、展示会場の取り難さ等)について会員相互の議論を深め、振興会としてその解決に努力し、時には行政へ提言します。
- 市内にはさまざまな分野のプロを目指す有能なその方々がおられます。その方たちの発表の場を振興会としてどんどん企画してゆきたい。
- 文化芸術に「思い」のある方が集まり多角的議論と相互の交流を深め街の文化芸術の活性化を促すことが目的です。場合によってはコーラス、演劇、バンド、等の協会設立への支援も行います。
- 文化芸術を愛する様々な分野の方が集まる和気藹々とした西東京市唯一の文芸サロンも目指しています。

毎月第三火曜日(6時30分～)運営委員会を開催して企画や今後進むべき道を議論しております。ご興味のある方また何かしたいと思われる方、是非参加してください。運営委員会は常にオープンです

・入会申込書は郵送、メール、またはこもれびホールの当団体連絡箱に投函ください。

キ リ ト リ

<連絡先>西東京市文化芸術振興会 事務局

〒202-0011 西東京市泉町2-7-24 小田 義治

TEL/FAX 042-423-0804 E-mail cbr43520@pop21.odn.ne.jp

※お申し込みいただき次第、振込先を送付いたします。
又は1,000円の郵便切手でも結構です。

キ リ ト リ

西東京市文化芸術振興会 <入会申込書>

平成 年 月 日

西東京市文化芸術振興会に入会いたします。

所属団体名 ()

個人名 ()

住所・TEL・FAX・メール
()

(〒 -)

団体年会費 3,000円

個人年会費 1,000円

※どちらかにチェックしてください。

領 収 証

様 年 月 日

団体年会費 3,000円

個人年会費 1,000円

上記正に領収いたしました。

西東京市文化芸術振興会事務局

西東京市生活環境部 生活文化課長 飯島 享



平成22年4月1日、西東京市は、文化芸術振興条例を施行します。この条例は、市民の皆様が文化芸術を享受し、創造し、発信できる、文化芸術の香りあふれるまち、心豊かに暮らせるまちを目指すものです。合わせて、平成22年4月には、市の組織の一部を見直し、文化振興とスポーツ振興の総合的な推進を図るため、新たに“生活文化スポーツ部”を創設する予定です。このように、西東京市は、文化芸術施策の推進に向けて、大きな一歩を踏み出そうとしています。平成22年度には、文化芸術振興施策を検討するための推進機関を設置するとともに、市の文化芸術施策を再構築し、計画性のある事業展開を目指すため、市民の皆様の参加をいただきながら、(仮称)文化芸術振興計画の検討を開始する予定です。皆さまのご理解とご協力をお願いします。

「西東京市文化芸術振興条例」の内容は、下記概要をご覧ください。西東京市では平成22年度以降、条例の目的や内容について説明会を行なう予定です。条例の全文は西東京市のホームページに掲載しておりますので、そちらをご覧ください

西東京市文化芸術振興条例の概要

「西東京市文化芸術振興条例」は、市民の皆様が文化芸術活動を通じて、日々の生活に潤いと豊かさを感じて過ごし、ひいては西東京市の地域における文化芸術の振興を図ることを目的として(第1条、第2条)定めております。

市は、文化芸術活動を行っている市民や団体と相互に協力して(第3～5条)、その活動の振興に努めるため、基本計画を作ります(第6条)。

その策定にあたっては、専門家や学識経験者、公募市民を交えて議論を行い(第8条)、重点目標を柱として基本的な施策を考えます(第7条)。また、各公共施設において充実した文化芸術活動が行えるよう、配慮します(第9条)。

編集後記

公民館などに置いてある「市民と文化」を持って行かれる方が増えている様子で大変うれしく思っています。未だに力の及ばない振興会ですが、読者の皆様に文化が広がってゆくように次号もがんばります。

市民と文化

第3号

2010年1月1日発行
 発行人 海老澤 敏
 編集人 小田 映子
 西東京市泉町2-7-24
 tel:fax 042-423-0804

田無 向台公園「鈴木メソード」邸跡

耳から音を聴いて曲をおぼえる・・・独特な音感教育で知られる「鈴木メソード」の鈴木鎮一氏の屋敷跡が向台に保存されています。ヴァイオリニスト故・江藤俊哉氏、豊田耕児氏もここから巣立ちました。(現在は門だけが残り、あとは公園となっている)

